

公表	事業所評価アンケート総括表
----	---------------

○事業所名	清岳園いっぼ			
○ご家族評価実施期間	令和 7年 4月 1日 ~ 令和 8年 1月31日 (無記名での郵送で実施)			
○ご家族評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	14名
○スタッフ評価実施期間	令和 7年 4月 1日 ~ 令和 8年 1月31日			
○スタッフ評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業所評価アンケート総括表作成日	令和 8年 2月19日			

○分析結果

	事業所の強味(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『適切な支援の提供』の項目に対して高い評価を得られた為、現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	スケジュールやカレンダーその他の必要な情報については、お子様の理解力に応じ、文字や写真・イラスト・絵などを活用し伝達している。また言葉で想いを伝えられない場合にはABAなども活用し、行動が意味することや、どういった障がい特性が影響しているのかなどをアセスメントするなど、本来の想いを汲み取り代弁できるよう努めている。障がい特性が影響し、言葉で意思表示が難しい、選択肢がイメージできない、いつも同じ物しか選べないなど、一人ひとりのお子様に合わせて、写真/絵カードを活用したり、PECS コミュニケーションシステムの考えを軸に全てのお子様で自己選択できる仕組みを設定している。	引き続き、インクルージョンの視点を持ち公共交通機関の利用や、地域の社会資源を活用した日常生活に必要なスキルが習得できる活動の幅を広げていく必要がある。また一人ひとりのお子様のニーズや課題に応じて、将来的に支援者が変わっても、環境が変化しても困らないよう、個々の自立を見据えたスキルを習得できる活動や自己選択できる機会の提供に努めていく。
2	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『保護者への説明責任等』の項目に対して高い評価を得られた為現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	契約時を含め、年度毎に事業計画書ダイジェスト(ご家族へ配付)で運営規定/支援プログラム/各指針やマニュアルなどを説明している。また送迎時間や利用者負担額や各種加算取得に関するについても、毎年個別支援計画書へ記述し同意を得ている。	お子様やご家族との意思の疎通や情報伝達については、引き続きスケジュールやカレンダー/その他必要な情報などを、お子様の理解力に応じ、文字や写真・イラスト・絵などを活用し伝達していく。また言葉で想いを伝えられない場合にはABAなども活用し、行動が意味することや、どういった障がい特性が影響しているのかなどをアセスメントし、本来の想いを代弁できるよう努めていく。口頭のみでは解釈や捉え方の違い、伝達ミスやヒューマンエラーなどが発生する可能性があるため、できるだけ書面でやりとりすることに心掛けていく。
3	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『非常時に対応』の項目に対して高い評価を得られた為、現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	各非常時に合わせたマニュアルを策定し、事業計画へ反映、またご家族へも指針やマニュアルをまとめた別紙を配付し確認してもらっている。服薬/アレルギー/障がい/疾病などの情報については、救急搬送時や緊急時に合わせて、ファイリングしたものを各送迎車両や事業所内に完備している。昼食や飲食物の買い物や外食する際には、禁止されている飲食物の表を確認し購入物の選択時はスタッフが付き添っている。各ケースに応じて、インシデント・アクシデント報告書が提出され、改善策が示されている。引き続き、各報告書については、今後事故やケガに繋がらないよう、また同様の事案が発生しない様、改善策を考えるための書類作成として、各スタッフがポジティブに捉え、積極的に報告しやすいよう状況を作っていく。インシデントとアクシデントの判断がしやすいよう基準を明文化している。	引き続き、防災訓練時毎にBCP/安全計画の見直しをする機会を設けることで、移り変わる変化に対して確実に改善できる仕組みを実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p align="center"><保護者との連携></p> <p>『項目12(ご家族):事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会の開催や情報交換および助言等する機会がありますか?』1名「はい」以外を選択していることから『家族支援』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、地域研修会の開催は中止としていたが、令和7年度より、家族等も参加できるASDの基礎研修を再開し、50名程が参加している。</p> <p>不十分であると考えているが、連絡帳や送迎時、また個別面談等でご家族の悩み等を共有し、過去のケースや障がい特性と照らし合わせ助言ができるよう努めている。また事業所内で成功した支援ツールをご家族の希望等に応じ、ご家庭で般化できるよう提供している。</p>	<p>当事業所主催の研修会を継続して開催し、ご家族へご案内をさせていただき、お子様との関りのヒントになるサポートができるよう努めていく。</p> <p>また、ご希望に合わせて随時、面談を実施させていただき、情報交換及び助言等ができるよう努めていく必要がある。</p>
2	<p align="center"><保護者への説明等></p> <p>『項目18(ご家族):定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか?活動概要や行事予等の情報をこどもや家族に対して発信しているか?』に対して1名「はい」以外を選択していることから『情報発信』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>ホームページや別紙で事業所アンケート結果や行事予定等について、発信しているが、SNS等を利用したの定期的な情報の発信はなく、基本的には紙媒体中心の情報発信となっている。</p>	<p>SNS等を利用したの、当日の様子などについての情報発信や連絡帳の代替えとしての活用については、事業所の立地場所が中山間地域となり、電波状況が非常に悪く、また天候にも影響されやすく、通信会社へも相談したが、改善は難しい状況。そのためSNSを活用したの情報発信や、やりとりについては、通信障害の課題で、困難な状況であり、今後とも活用は難しいと判断しているため、ご家族にも説明していく。</p>
3	<p align="center"><関係機関との連携①></p> <p>『項目9(スタッフ):第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか?』に対して、2名以上のスタッフが「はい」以外を選択していることから『外部評価』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>過去に月に一度個人契約で第三者に訪問してもらう機会を設けていたが、現在は各学校の下校時間や、事業所への到着時間の差が大きく、平日に対応することが困難となり、第三者およびオンブズマンの受け入れが中止となった。</p>	<p>引き続き、相談支援専門との連携を外部評価として活用し、支援の課題を見極め改善できるよう努めていく。計画書・評価書作成時のサービス担当者会議等での意見交換の徹底と『ご家族との個別面談』にも必要に応じて同席してもらい、計画書と評価書の共有を含め、外部評価が得られやすいよう工夫していく。</p>
4	<p align="center"><関係機関との連携②></p> <p>『項目31(スタッフ):地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか?』に対して2名以上が「はい」以外を選択していることから『児童発達支援センターとの連携』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>近隣に児童発達支援センターがないといった地域性の課題もあり、密に連携をとることは難しいことが現実である。</p>	<p>引き続き代替えとして当事業所主催の法人勉強会や各領域の研修をオンラインで受講できる機会を設け人材育成に努めていく。</p> <p>地域の中核機能を担える事業所になれるようスキルアップするため、地域の関係機関との連携強化と当事業所主催の勉強会や研修会を開催していく。</p>